



T S U N A G U

- **小から中への滑らかな接続において** -

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和3年8月4日

我孫子市小中一貫教育だより

第232号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



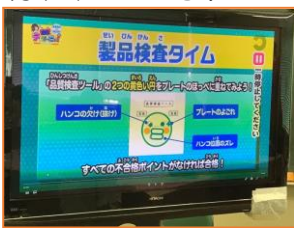
布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi☆小中一貫カリキュラムの共有授業実践の紹介うな～!

今回は、布佐南小学校・湖北台東小学校・我孫子中学校・新木小学校での共有授業実践について紹介します。

Abi-キャリア 職場体験学習

6月24日に、布佐南小学校第6学年で、一般企業「バンダイ」のCSR*活動の一環として行われている、「バンダイ出前授業プログラム」を取り入れたキャリア教育を行いました。



子ども達は、まず、企業の大切な仕事の一つ、製品の「安全点検」をしていることを学びます。続いて、実際に作業を体験します。その中で、うまくいかないこと、課題となることに気付くと、グループで課題解決に向けて話し合い、何度も挑戦して課題をクリアしていきました。



本授業をとおして、仕事について実際に触れ、体験するだけでなく、学んだことを生かし、また話し合いをとおしての課題解決を体験することができました。また、社員の方から企業のモットー「楽しく働く」という話を聞き、働くことへのイメージも膨らんだようです。

※CSR (Corporate Social Responsibility) とは、企業の社会責任のこと。企業が利益を求めることだけでなく、社会を作っている仲間のひとりとして、社会的な影響に責任を持ち、世の中がよくなっていくように努力することです。こうした、企業との連携学習の中で、子ども達が社会の一員として体験的に学ぶことも効果的なキャリア教育です。



Abi-ふるさと 「田口 静」

7月9日に、湖北台東小学校第6学年で、Abi-道徳として、我孫子の先人「田口静」についての学習を行いました。子ども達は、「田口静」が当時無医村だった湖北村（当時）で医院を開業し、「医は仁なり」の精神で献身的に医療活動を行ったことを知ると、それぞれに「田口静」という先人のすばらしさについて思いを馳せ、また友達とその意見を共有しながら「田口静」という人物を多角的に見つめていきました。



この授業をとおして、子ども達は、自分の利益を求めず、地域の人々のために尽くした「田口静」の生き方に心を動かされていました。「田口静」という先人に会い、その生き方に触れ、自分の生き方についても考えていた子ども達でした。



Abi-ふるさと 「中野治房」



7月12日に、我孫子中学校第1学年で、Abi-道徳として我孫子の先人「中野治房」についての学習を行いました。テーマは手賀沼を例に「環境問題を考える」です。

まちの活性化のために遊園地を作ることに賛成か、反対か、理由とともに考える内容から授業が始まりました。生徒たちは、「ふるさと我孫子の先人たち」を読み、手賀沼で水生植物の研究をしていた中野治房の功績を知り、最後は手賀沼のほとりに住む一人として

「将来こんな手賀沼になってほしい」「そのためには何が必要か」を考え、発表しました。環境を守りながらまちの発展について考えたり、手賀沼の将来を考えたりすることで、我孫子のまちについて深く考えるきっかけとなる授業でした。

こうした授業をとおして、地域や我孫子への関心を高め、郷土愛を涵養していきます。



Abi-ふるさと 「飯泉 喜雄」

7月16日に、新木小学校第5学年で、Abi-道徳として我孫子の先人「飯泉喜雄」についての学習を行いました。

学習の始めに、今と昔の地図を比べて、たくさんの方に気づく子どもたち。住宅が増えた、橋ができた、道路が増えた、線路が増えた、大学ができた等の意見が出ました。

我孫子市のこのような変化に、飯泉喜雄という人物がどのように関係しているのかを調べていきます。

「鉄道無くして、町の発展無し」と信じて尽くす飯泉喜雄の心情に迫っていくと、子どもたちからは、「我孫子を発展させたい。」「人でにぎわう町にしたい。」「くらしをよくしたい。」「仕事に行きやすくしたい。」「町と町をつないで人と人をつなぎたい。」等の意見が出ました。

町と町がつながり、人がつながる町だから、人が増え住宅が増えた。どこへでも行ける、どこからでも来やすい町だから、大学が建ち人でにぎわうようになった。最初に見比べた現在の地図は、飯泉喜雄が思い描いた町のすがたです。これからの我孫子は、飯泉喜雄の想像を越えたすがたになるかもしれません。

自分たちは、人のために、町のために、何を行うか、自分事として考えを深める時間になりました。



キャリア教育も、ふるさと学習も、「人との出会い」や体験的な学習が効果的であることは、子ども達の学ぶ姿勢や意欲、表情からよく伝わってくる。

これからも、我孫子の先人をはじめ、地域の方々や、働く人々と子ども達がどんな出会いをするのか、そしてその出会いからどんなことを学び、仲間と共有していくのか、楽しみうな～！

